

【国語】

【1】以下の文章を読んで、各問に答えなさい。

1 リーガル・リサーチとは？

法律家は、仕事に必要なさまざまな調査をする。かなり乱暴な言い方だが、さしあたりその全体をリーガル・リサーチ (legal research) と呼んでいいだろう。ここでは、リーガル・リサーチに関連して、法律家の卵にどのような専門 (ア) 技能 の習得が期待されているか (つまり、何ができなければならないか) という観点からその内容を解説する。

法律家に求められるリサーチに関わる技能を (ア) みがく 前提として、法に関わる情報源について一定の知識をもち、情報源を使いやすいように構造化する努力が求められる。

さて、リーガル・リサーチの中心にあるのは、「現行法」の調査である。ここにいる「現行法」は、最新の六法全書に印字収録されている現在有効な条文 (現行条文) のことではない。(イ) しゅうち の通り、現行条文は、裁判の現場で文言どおり **【Ⅰ】** 適用されているとは限らない。たとえば、現行民法177条には「第三者に対抗することができない」という (あ) 箇所 があるが、裁判所は、この第三者を「すべての第三者」を意味するものとは解釈していない。そのため、事件の処理を考える場合、法律家は、現行条文から出発して、裁判の現場で実際に使われている基準 (もっと正確に言えば、使われる可能性が高い基準) をまず知ろうとする。この基準が「現行法」であり、それを特定するためには専門的な調査が必要である。

このような発想法は、英米法の世界でとくにはっきり観察される。英米法では、裁判の基準となる主要な法源が制定法ではなく、過去の (い) 膨大 な判決群の中に求められたため、自分が引き受けた事件に関係する過去の判決群を探し出し、その中から事件に適用される「判例」 (つまり、「現行法」) を正確に (う) 抽出 する調査技能が歴史的に発達した。これが英米のリーガル・リサーチの歴史的起源である。しかし、現在では、英米法の世界に限らず、リーガル・リサーチは法律家が自分の仕事を適切に処理するために行う多様な専門的調査という広い意味合いで使われている。

2 【A】

現行法の調査の場合、ふつうやるべき作業は決まっている。「判例・学説」という表現は、現行条文から出発し、次に事件の事実関係に似た事件に関する判例を探し出し、実際にどのような具体的な基準が使われてきたのかを確認し、それでもなお現行法が何であるのかについて疑問が残る場合には、学説を参照し、それでもだめなら、立法資料、外国法、社会事情を順次調査し、最終的には自分の頭脳・知識・経験を総 (う) どういん するという調査の (え) 定石 を **【Ⅱ】** 表現している。

ここで注意する必要があるのは、この手順は、何のためにそういう手順を踏むのか、またなぜその手順でよいのかを説明する理論を (エ) あんもく に前提しているという点である。この隠れた理論は、調査の構想と密接に結びついている。たとえば、なぜ「学説・判例」という順序ではなく、「判例・学説」という順序なのか？と自問してみれば、その答えの中に一定の構想と理論が自然に浮かび上がってくるはずである。定石的手順を含めて、手順とその適切さを説明する理論の両方を意識することは、状況に応じて **【Ⅲ】** 手順を変更できる専門技能の (オ) かくりつ につながるものである。

現行法の調査を離れ、たとえば、医療過誤訴訟との関係で医療に関する調査をする場合には、かならずしも定石はない。そこでは、どんな目的で何を調べればよいのかを構想する能力が強く求められることになる。調査目的・調査対象となる情報の種類・範囲、調査の手順を調査開始以前にきちんと企画する技能は、リーガル・リサーチの基本なのである。

3 【B】

情報収集というと、どのような書誌を調べ、どのようなデータベースを利用するかという所へすぐ目が向くが、まず求められるのは長期的に維持できる (お) 人脈 (人間関係) を作る技能の習得である。最新の情報は専門家の頭の中にある。専門家は、雑誌論文やインターネット情報よりも、新しくしかも正確で信頼できる情報を握っている。頼むとすぐにポイントを1時間足らずでわかりやすく説明してくれる友人の専門家 (あるいは専門家を紹介してくれる友人) をもつことは、自分の情報収集能力を高めることなのである。

書誌を調べ、図書・論文その他の情報を集め、データベースを使いこなし、インタビューする技能の訓練は、そのような人脈を作る機会を同時に提供する必要がある。おそらく、それは、法律家の卵が自覚的に自分にあつた情報収集の手順を作り上げる訓練の中で行われる。たとえば、判例調査の手順（判例要旨付き六法、判例要旨データベース、判例の全文を収録するデータベース、判例の入手、判例評釈の入手）を法律図書館の専門家や仲間と相談しながら作り上げれば、長期的人間関係の糸口をつかむ機会を手にすることができるだろう。

4 【C】

リーガル・リサーチは、情報を集めれば終わるのではない。あることに関する調査の結果、200程度の論文リストと全文データが集まることは稀ではない。この大量の情報をどのように分類し、保存し、仕事に使うことができるように管理するかという技能は、どうしても必要である。たとえば、「この点に関する議論を半日程度でざっと見て、だいたいの概要をまとめ、未解決の問題点を知らせてほしい」という依頼に応えるには、それなりの技能を習得しなければならない。この技能は、実習訓練の中で初めて一定のレベルに到達するものである。

5 【D】

法律家は、依頼人、法律家、他の分野の専門家など幅広い人間関係で仕事をしている。その中で要約1頁、説明資料数頁程度で情報を提供してほしいという要求は、ふつうである。膨大な量の情報を短時間のうちに読んで処理する一方で、その内容を非常にコンパクトな形に凝縮し、しかもわかりやすい形で相手に提供する技能は、法律家の卵のリーガル・リサーチ技能の重要な部分である。リーガル・リサーチの最終生産物は、ふつう文書であるから、リーガル・リサーチ自体がこの文書作成を最終目的に行われているといつてよい。そのために、どのような手順を踏めばいいのかを学ぶ機会、求めて得るべきものであろう。

わかりやすさという観点からは、図やスライド、ビデオなどが有効である。法律家は、これまでの活字中心文化から徐々に脱却して、さまざまなメディアを使って情報を加工・統合・表現する技能文化の習得を求められている。

6 リーガル・リサーチの基礎を強化する努力

上に述べた4つの技能は、リーガル・リサーチをする場合の中心的技能である。しかし、これらの技能を長期的に向上させるには、基盤を整備しなければならない。法律家は、一生の仕事であり、その中でリーガル・リサーチは来る日も来る日も行われる作業である。この反復継続的な作業を効率よく行うには、自分の体制を整えることが望ましい。

現在、法律実務でコンピュータを使わないという選択は不可能になっている。コンピュータを自分の仕事にもっとも便利のように作り上げるのは、リーガル・リサーチの基盤整備として非常に重要である。最高裁判所や総務省のデータベースに限らず、インターネット上の情報源は、急速に膨張している。それに対応できるように自分のホームページを設計するようなことも法律家の卵の不可欠の作業になるように思われる。

これまでも法律家は、法に関する情報源について一定の知識をもち、情報源を使いやすいように構造化する努力をしてきた。

7 「リーガル・リサーチ&ライティング」という授業科目

リーガル・リサーチについて、「リーガル・リサーチ&ライティング」という授業科目を提供している法科大学院がある。ライティングが含まれている趣旨は、上に述べた多様なメディアによる情報の表現と発信の訓練を技能訓練に組み込むためである。技能はあくまで最終生産物を作り出すためのものであり、リサーチ報告書を前提としない技能訓練は、リアリティを欠くと考えられる。

- (1) 下線部(あ)～(お)の漢字の読みを、ひらがなで答えなさい。
- (2) 下線部(ア)～(オ)のひらがなの部分を、漢字に直しなさい。
- (3) 下線部(α)の「技能」をカタカナ語(英語)に置き換えるとした場合、選択肢①～④の中からもっとも適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。
① アビリティ (ability) ② スキル (skill)
③ テクニック (technique) ④ ナレッジ (knowledge)
- (4) 空欄【Ⅰ】～【Ⅲ】には、それぞれ、選択肢①～③のいずれかの語句が入る。適切に埋めるとすると、どれを入れるべきか。それぞれ1つずつ選び、記号で答えなさい。
① コンパクトに ② 機械的に ③ 柔軟に
- (5) 空欄【A】～【D】には、各ブロックの小見出しとして、それぞれ、選択肢①～④のいずれかが入る。適切に埋めるとすると、どれが入ることになるか。それぞれ1つずつ選び、記号で答えなさい。
① 情報を加工・統合・表現する技能 ② 情報を収集する技能
③ 情報を分析する技能 ④ 調査を構想する技能
- (6) 本文の内容全体について、100字以内で要約しなさい。

【2】以下の各問いに答えなさい。

(1) 次の意味内容をもつ**故事成語**として最も適切なものを選択肢①～⑥の中からそれぞれ1つ選び、記号で答えなさい。

(Ⅰ) 人生の幸・不幸は予測しがたい、ということのたとえ。

(Ⅱ) 弟子が、自らの師よりも優れた存在になることのたとえ。

- ① 青は藍より出でて藍より青し ② 雨垂れ石を穿つ ③ 後生畏るべし
④ 塞翁が馬 ⑤ 柔能く剛を制す ⑥ 虎の威を借る狐

(2) 次の意味内容をもつ**四字熟語**として最も適切なものを選択肢①～⑥の中からそれぞれ1つ選び、記号で答えなさい。

(Ⅰ) この世のあらゆる事物のこと。

(Ⅱ) ものごとの中のどうでもよいと思われる部分のこと。

- ① 枝葉末節 ② 森羅万象 ③ 徹頭徹尾
④ 二束三文 ⑤ 不偏不党 ⑥ 有名無実

(3) 従来、**誤用**または**俗な用法**として扱われた言葉の用いられ方が、実社会での用いられ方の状況変化等を反映して、その旨、**国語辞典**の改訂の際に、**語釈**の記述内容に**追加・付記**等されることがある。

以下の選択肢(ア)と(イ)は、一方は「従来から国語辞典にその言葉の**本来的な**意味内容として記述されているもの」、もう一方は「近時において、**新たに**追加等されることになったもの」である。

次の(Ⅰ)、(Ⅱ)の言葉の意味内容として、「近時において、**新たに**追加等されることになったもの」は、(ア)または(イ)のいずれであるか。それぞれ、適切なものを選び、記号で答えなさい。

(Ⅰ) 確信犯

(ア) 自分の考え・信念の方が正しく、それを認めない今の社会こそ間違っているのだ、という考え・信念のもと、行動に出る人のこと。

(イ) 許されないことを、許されないことであると承知のうえで、敢えてそれを実行する人のこと。

(Ⅱ) 煮詰まる

(ア) アイデアの構築や議論・検討などが、十分に行われた結果、ゴール直前の最終的な段階にまで到達した状況にあること。

(イ) 自分達ではどうにもできず、うまくいかない、行き詰まった状況にあること。

[国語出題 以上]